

新型コロナウイルス感染症における大会開催に向けた感染拡大予防ガイドライン

岡山県高体連ソフトボール専門部

(1)大会への参加募集時の対応

専門部では、参加募集に際し、感染拡大の防止のために参加者が遵守すべき事項を明確にして、協力を求める。参加者の安全を確保するため、これを遵守できない参加者には大会への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあり得る。

なお感染拡大防止のための措置として、以下が挙げられる。

- ① 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（大会当日に書面で確認を行う）
 - ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる場合
 - ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等の競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）
- ③ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- ④ 他の参加者、保護者、審判等との距離を確保すること（できるだけ2m以上）
- ⑤ 大会開催中は大きな声での会話、応援等をしないこと
- ⑥ 感染拡大防止のために高体連が決めたその他の措置を遵守し、指示に従うこと
- ⑦ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、高体連に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

(2)大会参加者への対応

1)書類による参加者の体調の確認

参加チーム代表者には大会当日、以下の事項を記載した書面（別紙「連絡先および健康状態申告のお願い」）の作成・提出を依頼する。

- ① 全員の氏名、年齢と代表者の住所、連絡先（電話番号） ※個人情報の取り扱いに留意
- ② 大会当日の体温（全員分）
- ③ 大会前2週間における以下の事項の有無（全員分）
 - ア 平熱を超える発熱
 - イ 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常
 - ウ 体が重く感じる（だるさ、倦怠感）、疲れやすい、息苦しい（呼吸困難）等
 - エ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - オ 同居家族や身近な知人の中で感染が疑われる方の有無
 - カ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触の有無

2)マスクの準備等

専門部では、参加者にマスクを準備するよう依頼する。球場への出入り、着替え、表彰式等の直接競技を行っていない間、特に会話する時には、マスクの着用をお願いする。

また大会の前後のミーティング等においても、三つの密を避けることや会話時にマスクを着用することなどの感染対策に十分に配慮すること。 ※役員や補助員も同様に対応する。

3) 競技会場や学校への監督・選手等のバス移動

- ① 利用者の状況に配慮しつつ、定期的に窓を開け換気を行う
- ② 乗車前に、家庭において検温し、発熱や風邪症状が認められるものは乗車を見合わせる
- ③ 過密乗車を避け、利用者の座席を離し、2人座席に1人の座席とする
- ④ 乗車中は会話を控えマスクを着用すること
- ⑤ 利用者に手洗いや咳エチケット等を徹底すること
- ⑥ 多くの利用者が触れるドアノブ等を消毒すること

(3)大会等の主催者が準備・配慮すべき事項

1) 大会会場・競技備品類

- ① 試合球はできるだけこまめに拭いて使用する
- ② 試合で使用する備品類（トンボ、ラインカー、メジャー等）も消毒する
- ③ 会場内でのウォーミングアップはキャッチボールやトスバッティング程度とする
- ④ 感染対策とともに熱中症のリスクにも備える。特に、マスクを着用していると水分補給を忘れてしまい、体温が上昇することがあるため、こまめに水分を補給してもらう

2) 運営スタッフの体調確認

運営に関わるすべてのスタッフの検温を実施する。参加する審判員についても正確に把握し、全員分の体調確認を徹底するよう努める。

3) 式典等、運営の簡略化

- ① コイントス時、キャプテンと審判間のあいさつや試合前後の握手は控え、一礼などでこれに代える。
- ② 表彰式は、参加者が密になる状態を避けるため、内容を簡略化する

4) 競技上（練習含む）の留意点

- ① バット、ヘルメット、グローブ、打撃用手袋、ロジンバッグ等は各選手が使用し、可能な限り他の選手との共用を回避するように努め、共用せざるを得ない用具については、こまめに消毒を行う
- ② ベンチ内での監督、引率教員、選手間の距離はできるだけ2m（最低1m）確保する
- ③ グラウンドレベルでの円陣は控える
- ④ 握手、ハイタッチ、グータッチ、ハグなどの身体的接触を避ける
- ⑤ ベンチ内から声援や指示を出す場合は、対人距離に注意する
- ⑥ 試合前の打順表最終確認の際は、できるだけお互いの距離を取り、監督、審判の握手は行わない
- ⑦ 監督が審判に近づく際は最低2mの距離を保つ
- ⑧ 試合開始時の整列及び礼は、球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し、その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする
- ⑨ 競技中に守備側が集まって打ち合せをするときはグラブで口元を隠す
- ⑩ タオル、コップ、ドリンクボトル、アイシングバッグ等の共用は避ける

5) 観戦者（保護者）への対応

- ① 観戦者に発熱（37.5℃以上）、咳、倦怠感、咽頭痛などの症状が見られる場合には観戦を遠慮してもらおう ※各校顧問から事前告知すること
- ② 観戦者（保護者）には（2）大会参加者への対応の1）と同様の体調確認をチーム内で行うことと書面の作成・提出を依頼する
- ③ マスクの着用をお願いする
- ④ 球場出入口付近に手指消毒液を設置する
- ⑤ 観戦者に間隔を空けて観戦をしてもらう
- ⑥ 試合前後には観客の一斉移動が起こりやすいので、試合毎に観客を入れ替える
- ⑦ 応援については、以下の行為を禁止する
 - a) 肩組み、飛び跳ね、立ったり座ったりを繰り返すなど集団での動きを伴う応援（接触感染リスク）
 - b) 太鼓、笛などの鳴り物やメガホン、スティックバルーンを使用しての応援（飛沫感染リスク）
 - c) 大声を出しての応援（飛沫感染リスク）
 - d) フラッグや応援タオルを振り回す応援（飛沫、接触感染リスク）
- ⑧ ①～⑦の項目は、事前に顧問から保護者へ周知徹底してもらおう

6) トイレ・手洗い場所

トイレは感染リスクが比較的高いと考えられるため、以下に配慮して管理する。

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する
- ② 手洗い場には石鹸やハンドソープ（ポンプ型が望ましい）を用意する

7) ゴミの処理

- ① ゴミは必ず各自で処理をし、持ち帰る
- ② 回収する人はマスクや手袋を着用し、鼻水、唾液などが付いたごみや使用済のテーピングなどはビニール袋に入れ密閉して縛る
- ③ 作業後は必ず石鹸と流水で手を洗い、手指を消毒する。

(4)その他の留意事項

高体連専門部は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、大会当日に参加者より提出を求めた書面について、保存期間（少なくとも1か月以上）を定めて保存しておく。これらの個人情報については、必要に応じて保健所等の公的機関へ提供する場合があることを事前に関係者へ周知する。

また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合は直ちに参加校、岡山県高体連に報告する。